

高等学校ライティング教科書における 「書くこと」の課題比較分析

茨城県／筑波大学大学院博士後期課程在籍 小早川 真由美

概要

高等学校ライティング教科書23冊における「書くこと」の課題を分類し、どのような課題が教科書内で多用されているのか、それらの課題は学習指導要領が求めるライティング能力を育成するのに適切な課題か、分析を行った。各ライティング教科書では制限作文や和文英訳の課題が多く設定されていたが、全体的な特徴として、誘導作文と自由英作文の課題の占める割合は少なかった。さらに、現行の学習指導要領の記述内容がどのように教科書内でライティング課題として具現化されているか、検証した。自由英作文の課題として、自分の考えなどを整理して書く活動や、文章の構成や展開に留意しながら書く活動は設定されていたが、書き直す活動や読み手を想定して書く活動を設定している教科書は少なかった。そのため、教科書内の自由英作文の課題にこのような書く活動を取り入れていくことにより、「実践的コミュニケーション能力」の育成を支援する必要があると示唆される。

1 はじめに

現行の学習指導要領（文部省、1999）では「実践的コミュニケーション能力の育成」が重点目標となっている。学習指導要領の趣旨は一般的に教科書で具現化されるため、「実践的コミュニケーション能力の育成」をめざした課題（活動・作業・タスク・練習問題）が教科書内で設定されていなければならないと考えられる。本研究では4技能の中でも「書くこと（ライティング）」に焦点を当て、実際にどのような「書くこと」の課題（ライティング課題）

が教科書内で設定されているのか、それらの課題は学習指導要領が求めるライティング能力を育成するのに適切な課題かという観点から、教科書の比較分析を行う。そのために、本研究ではライティング課題を形式の観点で分類した分析基準や Hyland (2003) の分析基準などを教科書分析に適用し、分析結果を踏まえて、ライティング教科書のアップデート（改善、改訂）の可能性について検討していく。

2 先行研究

海外の教科書研究については、Cunningsworth (1995), Grant (1987), Littlejohn (1992), McGrath (2002), Tomlinson (1998, 2002) などによって提案された実践的な評価基準により、教科書を詳細に分析することが可能となった。一方、日本の教科書研究について和田 (1997, pp.52-53) は「学問の対象としての教科書研究が遅れているのが現状である」と指摘しており、深澤 (2009, p.80) は「英語教育活動の中で、教科書をはじめとする教材の存在と重要性は誰もが認めながら、教材に関する論議は乏しい」と述べている。

英語教科書をさまざまな視点から分析した研究が行われてきている（e.g., 手塚, 1997; 山根, 1993）が、ライティングの教材を直接対象とした実証的研究はあまり多くないのが現状である（小室, 2001）。本研究では英語教科書の中でも高等学校ライティング教科書を直接対象とし、「書くこと」の課題がどのように教科書内で設定されているか、23冊の教科書を

比較分析する。

3 リサーチ・クエスチョン

本研究では高等学校ライティング教科書における「書くこと」の課題を2つの観点から比較分析する。リサーチ・クエスチョン（RQs）は以下のとおりである。

RQ1：ライティング教科書において、「書くこと」の課題はどのように設定されているか（→4 教科書分析①）

RQ2：現行の学習指導要領の記載事項および「書くこと（ライティング）」の具体例は、どのように教科書内でライティング課題として具現化されているか（→5 教科書分析②）

4 教科書分析 ①

4.1 分析方法

4.1.1 マテリアル

分析対象とするのは、2008 / 2009年度改訂版、現行の高等学校ライティング教科書23種類である（表1参照）。

4.1.2 手順

Kobayakawa（2009, 2011）では、ライティング課題の形式の観点から、北内（1985）、野田（1991）、Rivers（1981）、手塚（1997）、山根（1993）に基づいて表2の分類基準を作成した。小室（2001）によれば、「制限作文」、「誘導作文」の用語の定義については、研究者間で統一が取れていないことが多い。Byrne（1979）やFinocchiaro and Brumfit（1983）ではコントロールの予先が主に形式に向けられているものを「制限作文」、内容に向けられているものを「誘導作文」と呼んでいる。本研究でもその定義に従い、形式の制限を意図した場合を「制限作文」、内容の制限に主眼を置いた場合を「誘導作文」と呼び、この2つを区別する。

これに基づき、分類方法としては、教科書のライティング活動を（1）制限作文、（2）誘導作文、（3）和文英訳、（4）自由英作文の4つのタイプに大別し、さらにこれらの活動を14種類の課題に分類した。なお、

■ 表1：分析対象の教科書

順位	出版社	教科書名
1	桐原書店	Pro-Vision English Writing
2	三省堂	Crown English Writing
3	文英堂	Powwow English Writing
4	数研出版	Polestar Writing Course
5	啓林館	Element English Writing
6	桐原書店	World Trek English Writing
7	東京書籍	Power On English Writing
8	文英堂	Unicorn English Writing
9	数研出版	Big Dipper Writing Course
10	第一学習社	Vivid Writing
11	三省堂	Exceed English Writing
12	大修館	Genius English Writing
13	第一学習社	Voyager Writing Course
14	池田書店	Practical English Writing
15	東京書籍	Prominence English Writing
16	旺文社	Planet Blue Writing Navigator
17	日栄社	Interface English Writing
18	開拓社	New Access to English Writing
19	池田書店	Daily English Writing
20	開隆堂	Sunshine Writing
21	増進堂	Mainstream Writing Course
22	三友社	Cosmos Writing
23	教育出版	Magic Hat English Course

（注）順位は2010年度の教科書採択冊数順位を示す（渡辺, 2010）。

（1）制限作文～（4）自由英作文に当てはまらないライティング課題は（5）その他とした（表2参照）。

前述のとおり作成された表2の分類方法を用いて、教科書分析①（RQ1に対応）では、教科書内でライティング課題がどのように設定されているのか、各教科書におけるライティング課題の種類や出現状況などの特徴について比較分析する。なお、Kobayakawa（2008）では英語I教科書20冊におけるライティングの課題数（小問）と各課題で学習者が書く想定される単語数を分析し、Kobayakawa（2009）では英語I・II、ライティング教科書、計15冊におけるライティング課題を小問で数えたが、特に自由英作文の課題の場合、制限作文や和文英訳の課題とは異なり、小問がなく大問のみで構成されていることが多いため、今回の分析では課題1つずつの重みを考慮して、小問ではなく大問のみで数えることにした。

■ 表 2：ライティング課題の分類方法 (Kobayakawa, 2009, 2011)

ライティング活動	ライティング課題
(1) 制限作文	(a) ディクテーション
	(b) 転換
	(c) 文結合
	(d) 空所補充
	(e) 英問英答
	(f) 語句整序
	(g) 付加拡充
	(h) 空所補充形式のサマリー・ライティング
(2) 誘導作文	(i) 空所補充
	(j) 英問英答
	(k) 付加拡充
(3) 和文英訳	(l) 1 文の和文英訳
	(m) 日本語を見て 1 文埋める問題
(4) 自由英作文	(n) 自由英作文など、決められたテーマについて自分の考えを書く活動
(5) その他	

(注) (5) その他の課題は、Hyland (2003) の枠組みでは「書くこと」の課題として分類できる。各ライティング課題の具体例は資料 1 を参照。

また、教科書分析の信頼性を確保するため、ライティング課題の 3 分の 1 は 2 名によって分類した。分類が異なった点については、2 名で協議した結果、

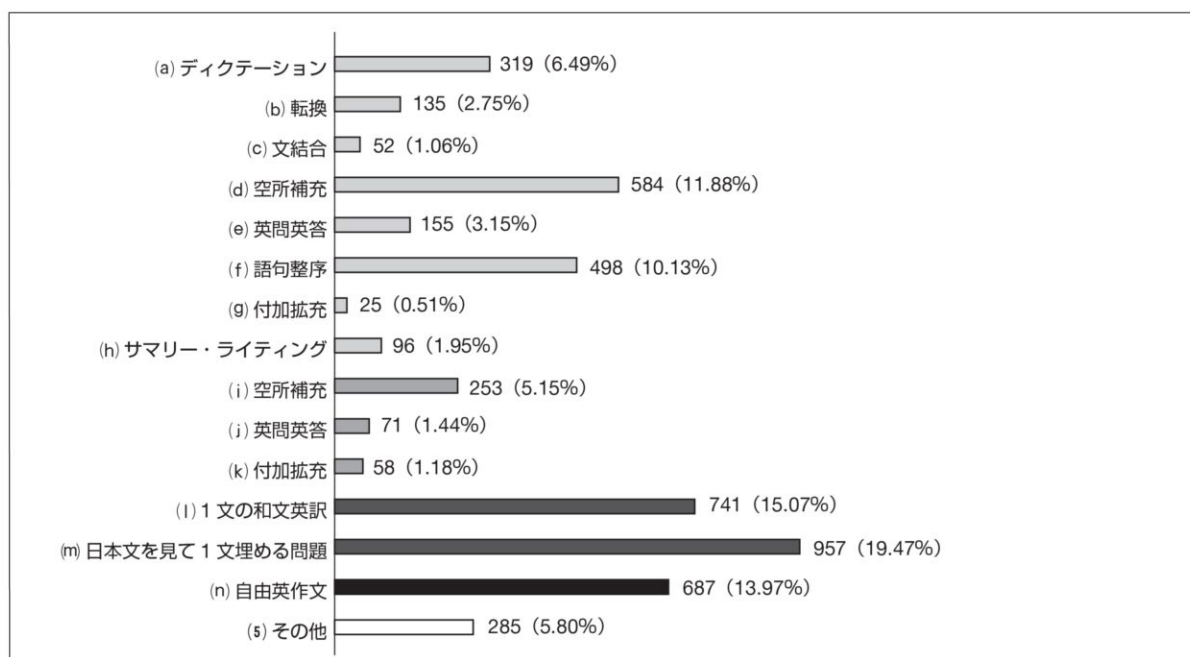
すべて一致した。その後、残り 3 分の 2 は 1 名によって分析した。

4.2 結果と考察

前述した表 2 に従って分析したところ、ライティング教科書 23 冊における「書くこと」の課題の出現状況は図 1 のように示された。

分析の結果、各ライティング教科書において 24.74～58.56% が制限作文の課題であった (23 冊全体では 37.92%)。制限作文の中では (d) 空所補充 (11.88%) が最も多く、次いで、(f) 語句整序 (10.13%)、(a) ディクテーション (6.49%) という順になった。誘導作文の課題は 23 冊すべての教科書で設定されており、中でも (i) 空所補充は 20 冊の教科書で設定されていたが (5.15%)、全体的な特徴として誘導作文の課題の占める割合は少なかった (23 冊全体で 7.77%)。

和文英訳の課題は、各教科書において 2.26～56.19% (23 冊全体では 34.54%) であった。その中でも (m) 日本語を見て 1 文埋める問題はライティング課題 14 種類の中で最も多かった (19.47%)。また、(m) 日本語を見て 1 文埋める問題は 23 冊すべての教科書、(l) 1 文の和文英訳は 22 冊の教科書で設定されていたため (15.07%)、前述した制限作文の課題の次に和文英訳の課題が多く設定されていることが示された。国立・私立大学入試問題における英作文



▶ 図 1：ライティング教科書 (23 冊) における「書くこと」の課題の出現状況

問題では和文英訳形式の出題が圧倒的に多いことから（中野, 2009）, ライティング教科書では和文英訳の課題が多く設定されていると考えられる。

次に、各教科書における自由英作文の占める割合は、6.78～24.86%であった（23冊全体では13.97%）。自由英作文の課題として説明文、論説文、要約文など、パラグラフやエッセイを書いて自己表現する活動（50～100語程度）が設定されていることや、自由英作文のトピックとして環境、平和、文化、国際理解など客観的な事柄について取り上げられていることが、ライティング教科書の特徴として挙げられる。

ここまでの分析ではライティング教科書23冊の全体的な特徴について見てきたが、さらに各教科書におけるライティング課題（(1) 制限作文、(2) 誘導作

文、(3) 和文英訳、(4) 自由英作文、(5) その他）の特徴を探るため、カイ二乗検定により分析した。その結果、 $\chi^2(88, N = 4916) = 990.629, p = .000$ であり、教科書によってライティング課題の設定に傾向の違いがあることが示された。そこで残差の検定を行い、どのライティング課題について有意差があるのか調整済み標準化残差を求めた結果が表3である（SPSS 17.0を使用）。

表3によれば、教科書間で制限作文、誘導作文、和文英訳、自由英作文、その他の課題数は5%水準で有意に異なっており、特に、制限作文と和文英訳では、課題数が有意に多い場合と少ない場合があり、教科書によっては正反対の傾向が顕著に見られた。分析の結果、各ライティング教科書における「書くこと」の課題の特徴は以下のように示された。

■ 表3：ライティング教科書における「書くこと」の課題の調整済み標準化残差による残差分析

教科書名	(1) 制限作文			(2) 誘導作文			(3) 和文英訳			(4) 自由英作文			(5) その他			計
	n	%	ASR	n	%	ASR	n	%	ASR	n	%	ASR	n	%	ASR	
Pro-Vision	82	45.05	2.0*	6	3.30	-2.3*	53	29.12	-1.6	32	17.58	1.4	9	4.95	-0.5	182
Crown	77	40.74	0.8	15	7.94	0.1	77	40.74	1.8	13	6.88	-2.9*	7	3.70	-1.3	189
Powwow	68	24.91	-4.6*	21	7.69	0.0	149	54.58	7.2*	29	10.62	-1.6	6	2.20	-2.6*	273
Polestar	47	25.41	-3.6*	23	12.43	2.4*	78	42.16	2.2*	23	12.43	-0.6	14	7.57	1.1	185
Element	61	31.77	-1.8	2	1.04	-3.6*	83	43.23	2.6*	42	21.88	3.2*	4	2.08	-2.2*	192
World Trek	65	26.97	-3.6*	14	5.81	-1.2	106	43.98	3.2*	39	16.18	1.0	17	7.05	0.9	241
Power On	52	37.41	-0.1	11	7.91	0.1	41	29.50	-1.3	26	18.71	1.6	9	6.47	0.3	139
Unicorn	40	25.32	-3.3*	21	13.29	2.6*	74	46.84	3.3*	11	6.96	-2.6*	12	7.59	1	158
Big Dipper	71	30.74	-2.3*	8	3.46	-2.5*	104	45.02	3.4*	29	12.55	-0.6	19	8.23	1.6	231
Vivid	98	48.51	3.2*	17	8.42	0.3	60	29.70	-1.5	17	8.42	-2.3*	10	4.95	-0.5	202
Exceed	91	43.13	1.6	24	11.37	2.0*	48	22.75	-3.7*	41	19.43	2.3*	7	3.32	-1.6	211
Genius	63	35.00	-0.8	34	18.89	5.7*	55	30.56	-1.1	24	13.33	-0.3	4	2.22	-2.1*	180
Voyager	48	24.74	-3.9*	6	3.09	-2.5*	109	56.19	6.5*	20	10.31	-1.5	11	5.67	0	194
Practical	87	36.86	-0.3	44	18.64	6.4*	87	36.86	0.8	16	6.78	-3.3*	2	0.85	-3.3*	236
Prominence	81	29.03	-3.1*	11	3.94	-2.5*	142	50.90	5.9*	34	12.19	-0.9	11	3.94	-1.4	279
Planet Blue	76	42.94	1.4	28	15.82	4.1*	4	2.26	-9.2*	44	24.86	4.3*	25	14.12	4.8*	177
Interface	116	40.14	0.8	11	3.81	-2.6*	100	34.60	0.0	60	20.76	3.4*	2	0.69	-3.8*	289
New Access	156	54.74	6.0*	11	3.86	-2.5*	62	21.75	-4.7*	38	13.33	-0.3	18	6.32	0.4	285
Daily	82	35.81	-0.7	21	9.17	0.8	100	43.67	3.0*	26	11.35	-1.2	0	0.00	-3.8*	229
Sunshine	144	54.75	5.8*	13	4.94	-1.8	64	24.33	-3.6*	39	14.83	0.4	3	1.14	-3.3*	263
Mainstream	63	30.00	-2.4*	7	3.33	-2.5*	32	15.24	-6.0*	39	18.57	2.0*	69	32.86	17.2*	210
Cosmos	66	44.30	1.6	20	13.42	2.6*	40	26.85	-2.0*	17	11.41	-0.9	6	4.03	-0.9	149
Magic Hat	130	58.56	6.5*	14	6.31	-0.8	30	13.51	-6.7*	28	12.61	-0.6	20	9.01	2.1*	222
計	1864	37.92		382	7.77		1698	34.54		687	13.97		285	5.80		4916

（注）n は課題数、ASR は調整済み標準化残差を示す（Adjusted Standardized Residuals）。調整済み標準化残差が+2.0より大きい場合は5%水準で有意に多い（観測度数が期待度数より多い）ことを示し、-2.0より小さい場合は5%水準で有意に少ない（観測度数が期待度数より少ない）ことを示す。 *p<.05.

Pro-Vision：制限作文が多く、誘導作文が少ない。
Crown：自由英作文が少ない。
Powwow：和文英訳が多く、制限作文が少ない。
Polestar：誘導作文と和文英訳が多く、制限作文が少ない。
Element：和文英訳と自由英作文が多く、誘導作文が少ない。
World Trek：和文英訳が多く、制限作文が少ない。
Power On：(有意差なし)
Unicorn：誘導作文と和文英訳が多く、制限作文と自由英作文が少ない。
Big Dipper：和文英訳が多く、制限作文と誘導作文が少ない。
Vivid：制限作文が多く、自由英作文が少ない。
Exceed：誘導作文と自由英作文が多く、和文英訳が少ない。
Genius：誘導作文が多い。
Voyager：和文英訳が多く、制限作文と誘導作文が少ない。
Practical：誘導作文が多く、自由英作文が少ない。
Prominence：和文英訳が多く、制限作文と誘導作文が少ない。
Planet Blue：誘導作文と自由英作文が多く、和文英訳が少ない。
Interface：自由英作文が多く、誘導作文が少ない。
New Access：制限作文が多く、誘導作文と和文英訳が少ない。
Daily：和文英訳が多い。
Sunshine：制限作文が多く、和文英訳が少ない。
Mainstream：自由英作文が多く、制限作文と誘導作文、和文英訳が少ない。
Cosmos：誘導作文が多く、和文英訳が少ない。
Magic Hat：制限作文が多く、和文英訳が少ない。

分析結果をまとめると、各ライティング教科書における「書くこと」の課題の主な特徴として以下の4点が挙げられる（注：括弧内の数字は各活動の出現率を示す。併せて各活動の中で最も多かった課題も記述した）。

1. 制限作文重視の教科書（5冊）

- *Magic Hat*（58.56%；(d) 空所補充 26.13%）
- *Sunshine*（54.75%；(a) ディクテーション 17.49%）

- *New Access*（54.74%；(f) 語句整序 14.85%）
 - *Vivid*（48.51%；(f) 語句整序 14.85%）
 - *Pro-Vision*（45.05%；(d) 空所補充 26.37%）
2. 和文英訳重視の教科書（9冊）
- *Voyager*（56.19%；(l) 1文の和文英訳 38.66%）
 - *Powwow*（54.58%；(m) 日本語を見て1文埋める問題 52.75%）
 - *Prominence*（50.90%；(m) 日本語を見て1文埋める問題 43.01%）
 - *Unicorn*（46.84%；(l) 1文の和文英訳 33.54%）
 - *Big Dipper*（45.02%；(m) 日本語を見て1文埋める問題 29.87%）
 - *World Trek*（43.98%；(m) 日本語を見て1文埋める問題 37.76%）
 - *Daily*（43.67%；(l) 1文の和文英訳 31.00%）
 - *Element*（43.23%；(m) 日本語を見て1文埋める問題 24.48%）
 - *Polestar*（42.16%；(l) 1文の和文英訳 26.49%）
3. 自由英作文が比較的多い教科書（5冊）
- *Interface*（ $n = 60$, 20.76%）
 - *Planet Blue*（ $n = 44$, 24.86%）
 - *Element*（ $n = 42$, 21.88%）
 - *Exceed*（ $n = 41$, 19.43%）
 - *Mainstream*（ $n = 39$, 18.57%）
4. 誘導作文が比較的多い教科書（7冊）
- *Genius*（18.89%；(j) 英問英答 10.56%）
 - *Practical*（18.64%；(i) 空所補充 13.98%）
 - *Planet Blue*（15.82%；(i) 空所補充 9.04%）
 - *Cosmos*（13.42%；(i) 空所補充 9.40%）
 - *Unicorn*（13.29%；(i) 空所補充 10.76%）
 - *Polestar*（12.43%；(i) 空所補充 7.57%）
 - *Exceed*（11.37%；(i) 空所補充 11.37%）

5 教科書分析 ②

5.1 分析方法

教科書分析①では、ライティング教科書内にどのような「書くこと」の課題が設定されているか、課題の種類や出現状況などの特徴について見てきた。では、これらのライティング課題は、学習指導要領の記載事項および「書く（ライティング）」活動の具体例に基づいて具現化されているのか。この点について検証するため、本研究では学習指導要領の記

述内容を達成するために必要であると考えられるライティング課題を Hyland (2003) (資料2) から選定し、分析基準を複数名で作成した (資料3 参照)。今回、複数の先行研究を検討した結果、Hyland ではさまざまなライティング教科書から L2 ライティング授業で一般的に使用されているタスクが収集され、一連のライティング活動がリストで提示されていたため、分析基準として採用した。教科書分析② (RQ2 に対応) では資料3の分析基準を適用し、ライティング教科書23冊の比較分析を行う。

5.2 結果と考察

はじめに、各ライティング教科書でどのような自由英作文の課題が設定されているか、Hyland (2003) に基づいて分析した。その結果は、表4のように示された (注: 1つの (n) 自由英作文の課題の中に [15]~[26] の複数の要素が組み合わされている場合があるため、各教科書における (n) 自由英作文の課題数と [15]~[26] の合計数は必ずしも一致していない)。

次に、表4の結果と資料3の分析基準を比較した。「書くこと (ライティング)」に関する学習指導要領の記述内容を見てみると、これらは主に自由英作文の課題と関連していた。分析の結果、自分の考えなどを整理して書く活動や、文章の構成や展開に留意しながら書く活動が各教科書で設定されていた。特

に [18] Draft a text based on the outcome of prewriting activities (プレライティング活動を踏まえて書く課題) は23冊すべての教科書で設定されていた。しかしながら、学習指導要領の複数の記述内容がライティング課題として教科書内に設定されていなかった ([19], [23], [27])。例えば、書いたことについて話したり発表する課題を設定していた教科書はあったが、書く過程で他の学習者とペアやグループになって意見を交換しながら書く活動を設定している教科書は少なかった ([17] は9冊, [26] は3冊のみ。[19] は設定されていなかった)。また、学習指導要領において、「書く過程も重視するよう配慮する」(3内容の取扱い、(2)) との記述があるが、1回書いて終わりとするのではなく、何度も書き加えたり、書き改めるような活動をライティング課題として設定している教科書は少なかった ([24] と [25] はそれぞれ1冊のみ, [26] は3冊で設定されていたが, [23] は設定されていなかった)。教科書編集趣意書 (文部科学省, 2009) で「書く過程の重視」を明記している教科書 (4冊) でも、ライティング課題として、自由英作文の推敲作業や書き直す活動は設定されていなかった。また、学習指導要領において、「場面や目的に応じて、読み手に理解されるように書く」(2内容、(1) 言語活動、ウ) との記述があるが、教科書内の指示文では、学習者に読み手を意識させるようなものが少なかった。そのため、学

■ 表4: 各ライティング教科書における自由英作文の課題

課題/教科書名	<i>Pro-Vision</i>	<i>Crown</i>	<i>Powwow</i>	<i>Polestar</i>	<i>Element</i>	<i>World Trek</i>
(n) 自由英作文	32	13	29	23	42	39
[15] Create a parallel text following a given model	15	10	4	10	11	31
[16] Create a text using visual information	0	1	1	0	1	0
[17] Negotiate an information gap/ opinion gap to construct a text	0	0	1	0	0	0
[18] Draft a text based on the outcome of prewriting activities	4	10	4	11	6	10
[20] Practice specific rhetorical patterns	9	5	4	9	5	1
[21] Practice various text-types	12	5	3	4	6	6
[22] Rewrite a text for another purpose	1	0	0	0	0	0
[24] Proofread and edit a draft for grammar and rhetorical structure	0	0	0	0	0	0
[25] Write a multi-draft, essay-length text	0	0	0	0	0	0
[26] Read and respond to the ideas/ language of another's draft	0	0	0	0	0	0

課題	Power On	Unicorn	Big Dipper	Vivid	Exceed	Genius	Voyager	Practical	Prominence
(n)	26	11	29	17	41	24	20	16	34
[15]	19	0	1	5	39	7	12	6	21
[16]	1	0	1	0	0	4	0	0	0
[17]	2	0	1	0	0	0	0	4	0
[18]	8	7	2	1	2	18	7	5	14
[20]	0	10	3	0	0	1	0	0	1
[21]	14	1	2	5	16	1	3	5	3
[22]	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[24]	0	0	1	0	0	0	0	0	0
[25]	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[26]	0	0	0	0	0	1	0	0	0

課題	Planet Blue	Interface	New Access	Daily	Sunshine	Mainstream	Cosmos	Magic Hat	計
(n)	44	60	38	26	39	39	17	28	687
[15]	21	5	0	9	9	0	9	8	252
[16]	7	8	0	4	0	1	2	4	35
[17]	7	6	0	0	0	3	1	1	26
[18]	17	25	2	3	11	18	4	7	196
[20]	6	3	5	1	3	1	1	9	77
[21]	9	6	7	3	6	3	3	8	131
[22]	4	0	0	0	1	0	0	1	7
[24]	0	0	0	0	0	0	0	0	1
[25]	0	0	0	0	0	0	0	3	3
[26]	4	1	0	0	0	0	0	0	6

(注) (n) は表 2, [] 内の番号は資料 2 に対応する。

習指導要領の記述内容を満たし、ライティングの観点から学習者の「実践的コミュニケーション能力」を育成するためには、自由英作文の推敲作業や書き直しなど書く過程を重視し、読み手を想定して書く活動を取り入れて、教科書内の自由英作文の課題を活用する必要があると考えられる。

6 結論

本研究では高等学校ライティング教科書における「書くこと」の課題を2つの観点から比較分析した。教科書分析① (RQ1 に対応) では、ライティング教科書において、「書くこと」の課題がどのように設定されているか、23冊の教科書を分析した。その結果、ライティング教科書の主な特徴として、① 制限作文重視の教科書 (5 冊)、② 和文英訳重視の

教科書 (9 冊)、③ 自由英作文が比較的多い教科書 (5 冊)、④ 誘導作文が比較的多い教科書 (7 冊) の4タイプが示された。23冊の全体的な特徴では、和文英訳 (34.54%) よりも制限作文 (37.92%) の課題の占める割合が多かったが、各教科書の課題設定の特徴を見てみると、制限作文を重視している教科書 (5 冊) よりも和文英訳を重視している教科書 (9 冊) の方が多いことが示された。また、制限作文や和文英訳と比較すると、誘導作文と自由英作文の課題の占める割合は少なかった。

次に、教科書分析② (RQ2 に対応) では、現行の学習指導要領の記載事項および「書くこと (ライティング)」の具体例が、どのように教科書内でライティング課題として具現化されているか検証した。教科書分析①と同じ23冊の教科書を分析した結果、自由英作文の課題として、自分の考えなどを整理して書く活動や、文章の構成や展開に留意しながら

ら書く活動は設定されていたが、自由英作文を書き直す活動や読み手を想定して書く活動を設定している教科書は少なかった。そのため、「実践的コミュニケーション能力」を育成するためには、教科書内の自由英作文の課題にこのような活動を取り入れていくことで、教科書のアダプテーションに結びつけることができると思われる。

さらに、自由英作文に至るまでのプロセスを重視した段階的な指導が必要であると考えられる。そのためには、教科書内の制限作文や和文英訳を用いて、作文に必要な知識や技法を系統的に学習させるのと同時に、徐々に自由英作文の語数を増やすなどしながら、積極的に自由英作文の機会を増やすことが望まれる。

また、ライティング教科書では、制限作文や和文

英訳を多く設定している傾向が見られた。今後、教科書ごとに課題の選択と配列にパターンがあるかさらに詳しく検証する必要があるが、Dykstra and Paulston (1967) では誘導作文の有効性が示されていることから、制限作文や和文英訳から自由英作文への橋渡しとして教科書内により多く誘導作文の課題を取り入れ、活用する可能性が示唆される。

謝 辞

本研究の機会を与えてくださった(財)日本英語検定協会、選考委員の先生方、特に羽鳥博愛先生に厚く御礼申し上げます。また、研究の構想段階からご指導いただいた筑波大学の久保田章先生に心より感謝申し上げます。

参考文献 (*は引用文献)

- * Byrne, D. (1979). *Teaching writing skills*. London: Longman.
- * Cunningsworth, A. (1995). *Choosing your coursebook*. Oxford: Heinemann.
- * Dykstra, G., & Paulston, C. (1967). Guided composition. *English Language Teaching*, 21, 136-141.
- * Finocchiaro, M., & Brumfit, C. (1983). *The functional-notional approach: From theory to practice*. New York: Oxford University Press.
- * 深澤清治. (2009). 「教材を見る視点」. 三浦省吾・深澤清治 (編). 『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』 (pp.80-91). 京都: ミネルヴァ書房.
- * Grant, N. (1987). *Making most of your textbooks*. London: Longman.
- * Hyland, K. (2003). *Second language writing*. Cambridge: Cambridge University Press.
- * 北内薫. (1985). 「制限作文」. 沖原勝昭 (編). 『英語のライティング』 (pp.130-170). 東京: 大修館書店.
- * Kobayakawa, M. (2008). English writing activities for practical communication abilities: Comparative analyses of writing tasks in English I textbooks. *JABAET Journal*, 12, 5-20.
- * Kobayakawa, M. (2009). *A comparative study of writing tasks in Japanese high school English textbooks*. Unpublished master's thesis, University of Tsukuba, Ibaraki, Japan.
- * Kobayakawa, M. (2011). Analyzing writing tasks in Japanese high school English textbooks: English I, II, and writing. *JALT Journal*, 33(1), 27-48.
- * 小室俊明 (編). (2001). 『英語ライティング論』. 東京: 河源社.
- * Littlejohn, A. (1992). *Why are English language teaching materials the way they are?* Doctoral dissertation, Lancaster University, Bailrigg, Lancaster, UK.
- * McGrath, I. (2002). *Materials evaluation and design for language teaching*. Edinburgh: Edinburgh University Press.
- * 文部科学省. (2009). 『平成21年度以降使用高等学校教科書編集趣意書 外国語(ライティング)編』. Retrieved from <http://www.textbook.mext.go.jp/shuishi/pdf/21h-writing.pdf>
- * 文部省. (1999). 『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』. 東京: 開隆堂.
- * 中野達也. (2009). 「分量編」. 金谷憲 (編). 『教科書だけで大学入試は突破できる』 (pp.99-168). 東京: 大修館書店.
- * 新里眞男 (編). (2000a). 『高等学校新学習指導要領の解説 外国語』. 東京: 学事出版.
- * 新里眞男 (編). (2000b). 『改訂高等学校学習指導要領の展開 外国語科編』. 東京: 明治図書.
- * 野田哲雄. (1991). 「書くことの指導」. 堀口俊一 (編). 『現代英語教育の理論と実践』 (pp.97-104). 東京: 聖文社.
- * Rivers, W.M. (1981). *Teaching foreign language skills* (2nd ed.). Chicago: University of Chicago Press.
- * 手塚司. (1997). 「ライティング教科書におけるタスク類型分析」. 『中部地区英語教育学会紀要』. 17, pp.95-102.
- * Tomlinson, B. (Ed.). (1998). *Materials development in language teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.
- * Tomlinson, B. (Ed.). (2002). *Developing materials for language teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.
- * 和田稔. (1997). 『日本における英語教育の研究: 学習

指導要領の理論と実践』東京：桐原書店。

* 渡辺敦司.(2010).「一橋の発行中止などでシェアに変動：2010年度高校教科書採択状況—文部省まとめ

(下)』、『内外教育』5967, pp.4-11. 東京：時事通信社。

* 山根邦雄.(1993).「ライティングの教科書に望む」、『英語教育』2月増刊号, pp.44-45. 東京：大修館書店。

資料・・

資料 1：ライティング課題の具体例

(1) 制限作文

(a) ディクテーション

英語を聞いて下線部を補い、文を完成させなさい。

Nana looked sad when she _____. She had lost her contact lens and _____, though she was looking for it _____. Will knew how she felt, so he told her that _____ with glasses.

(b) 転換

分詞構文を用いて、次の文を書きかえなさい。

Because they didn't know who he was, they didn't speak to him.

(c) 文結合

以下の 2 文を適当な接続詞を使って結びつけなさい。

She graduated from the University of Hawaii. She was employed as an assistant English teacher in Japan.

(d) 空所補充

() に適切な関係代名詞・関係副詞を入れなさい。

Yesterday, I happened to see a classmate of my junior high school; () was a pleasant surprise.

(e) 英問英答

上の学校新聞の記事を読んで、次の質問に英語で答えなさい。

When was the school festival held?

(f) 語句整序

() 内の語句を並べ替えなさい。

今日出来ることは明日に延ばすな。Don't (what / you / put off / can / tomorrow / till) do today.

(g) 付加拡充

※いろいろな修飾語句や節などを付け加えて文を長くする。

(例) The prize will be a vase.

The prize will be a beautiful vase.

The prize will be a beautiful old crystal vase.

(h) 空所補充形式のサマリー・ライティング

以下のパラグラフは「姓名のローマ字表記」に関するエッセイの要約です。要約の手順を参考にして、文中の空欄を埋めなさい。次に音声聞いて確認しなさい。

Japanese names, when written in *romaji*, are usually given in the Western name order.

(1) _____ reversing our names. For one thing, (2) _____.

For another, (3) _____; it gives Westerners a big advantage over Japanese people. These are the reasons why I maintain that (4) _____.

(2) 誘導作文

(i) 空所補充

下線部に適当な語句を入れて、自分自身のことについて書いてみよう。

Walking on the streets in my town, I see many _____.

(j) 英問英答

次の質問に英語で答えなさい。

Do you eat breakfast every day?

(k) 付加拡充

次の各文を読み、文を 3 つずつ付け加えて書け。

1. (例) My friends went to a French restaurant.

A. They ate crepes.

B. They drank wine.

C. They got sick during dinner.

2. Hawaii always has a lot of tourists.

A.

B.

C.

(3) 和文英訳

(l) 1 文の和文英訳

次の日本語を英語で表現しなさい。

私は、シャーロック・ホームズが事務所を置いていた、ロンドンのベーカー街を訪れたいといつも思っていました。

(m) 日本文を見て 1 文埋める問題

下線部に適切な語句を補い、日本語と同じ内容の文にしなさい。

インターネットがなければ、私たちの日々の生活は今日ほど便利ではないだろう。

If _____, our daily life would not be as convenient as it is today.

(4) 自由英作文

(n) 自由英作文など、決められたテーマについて自分の考えを書く活動

あなたのクラスメートを紹介する英文を書いてみよう。

(例) Ayako is one of my friends. We call her Aya-chan. She is very friendly. She is good at writing poems.

新学年の始まりは 4 月と 9 月ではどちらがよいかについての意見を述べなさい。

資料 2 : Commonly Used Types of Writing Tasks (Hyland, 2003, pp.114-115)

- [1] Extract information from a written text
- [2] Generate word lists for writing
- [3] Brainstorm/speedwrite to generate ideas
- [4] Create spidergrams/mind maps for prewriting
- [5] Combine sentences provided in materials
- [6] Identify the purpose and use of a text
- [7] Practice construction of simple and complex sentences
- [8] Reorganize jigsaw texts or scrambled sentences
- [9] Complete gapped paragraphs with target structures/lexis
- [10] Complete unfinished texts
- [11] Analyze an authentic text for patterns and features
- [12] Practice use of metalanguage to identify parts of texts (e.g., topic sentence, thesis, introduction, transition)
- [13] Practice identifying genre stages and presentation
- [14] Compare texts with different purposes/structures/audiences
- [15] Create a parallel text following a given model
- [16] Create a text using visual information
- [17] Negotiate an information gap/opinion gap to construct a text
- [18] Draft a text based on the outcome of prewriting activities
- [19] Participate in a dialog journal exchange
- [20] Practice specific rhetorical patterns (narrative, description, argument, process, etc.)
- [21] Practice various text-types (letters, summaries, criticisms)
- [22] Rewrite a text for another purpose (i.e., change the genre)
- [23] Revise a draft in response to others' comments
- [24] Proofread and edit a draft for grammar and rhetorical structure
- [25] Write a multi-draft, essay-length text
- [26] Read and respond to the ideas/language of another's draft
- [27] Research, write, and revise an essay-length text for a specific audience and purpose
- [28] Research, write, and revise a workplace/disciplinary text

(注) 今回分析した 23 冊の教科書内に設定されていた課題は網掛けで示した。(5) その他の課題は Hyland (2003) の枠組みで「書くこと」の課題として分類できる。(5) その他の課題はプレライティング課題として設定されていた ([1], [2], [3], [4], [7], [8], [9], [10], [12], [14])。

資料 3：高等学校学習指導要領（ライティング）と Hyland (2003) の分析基準 (Kobayakawa, 2009)

高等学校学習指導要領		Hyland (2003)
記述内容	活動の具体例	
1. 目標：情報や考えなどを，場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばすとともに，この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。		
2. 内容 (1) 言語活動 ア 聞いたり読んだりした内容について，場面や目的に応じて概要や要点を書く。	□教師やクラスの他の生徒の話や作文，新聞記事，テレビやラジオのニュース，情報通信ネットワークから得られた情報や考えなどを聞いたり，読んだりして理解し，整理し，まとめ，読み手にわかるように概要や要点を英語で書く。	[1] Extract information from a written text
イ 聞いたり読んだりした内容について，自分の考えなどを整理して書く。	□聞いたり読んだりした内容が事実を述べたものであるか，書き手の考えや気持ちを述べたものであるかを判断し，それについて自分がどう考え，どんな意見や感想をもったかを整理して主体的に書く。 □友人の被災を新聞で知り，お見舞いの手紙を書く。 □投書に対する回答（アドバイス） □早期英語教育に対する意見表明	[18] Draft a text based on the outcome of prewriting activities
ウ 自分が伝えようとする内容を整理して，場面や目的に応じて，読み手に理解されるように書く。	□自分の考え，感想，意見，事実の説明，情景の描写など，読み手によくわかるように筋道を立てて書く。 □日記を書く。 □スピーチ原稿の場合，相手が自分の主張を理解しやすくするために例を挙げたりして，説得の仕方を工夫して書く。 □課題研究の発表の場合，データをそろえ，相手に納得させられるような論理的な文章を書く。	[22] Rewrite a text for another purpose (i.e., change the genre) [27] Research, write, and revise an essay-length text for a specific audience and purpose
(2) 言語活動の取扱い ア 話されたり，読まれたりする文を書き取ること。	○ディクテーション ○ノート・テイキング	
イ 考えや気持ちを伝えるのに必要な語句や表現を活用すること。	☆I think, in my opinion, I'm sure, などの表現を活用する。 ☆文と文とのつながり，パラグラフの組み立て方，パラグラフ間の関連，趣旨の展開のさせ方などに注意しながら書く。	
ウ 文章の構成や展開に留意しながら書くこと。	☆聞いたことの趣旨を汲み取り，自分で調べ，新しい情報や自分の考えを書く。 ☆話されたことについて書く。 ☆読んだことについて書く。 ☆書かれたことについて話す。 ☆書かれたことについてさらに読む。	[15] Create a parallel text following a given model [20] Practice specific rhetorical patterns

3. 内容の取扱い (1) 聞くこと、話すことおよび読むこととも有機的に関連付けた活動を行うことにより、書くことの指導の効果を高めるよう工夫するものとする。	☆文型や文法事項の理解のための練習や和文英訳の作業だけでは不十分であり、言語材料を活用して情報や考えを伝えるために書く活動を中心に行う。 ☆1回書いて終わりとするのではなく、書き加えたり、書き改めたりしながら、少しずつ話題や内容を豊かにしたり、文や文章を練り、段落構成なども考えながら改善していく過程を重視して書く。	[17] Negotiate an information gap/opinion gap to construct a text [19] Participate in a dialog journal exchange [26] Read and respond to the ideas/language of another's draft
(2) 言語材料の学習だけにとどめず、情報や考えを伝えるために書くなど、書く目的を重視して指導するものとする。その際、より豊かな内容やより適切な形式で書けるように、書く過程も重視するよう配慮するものとする。		[18] Draft a text based on the outcome of prewriting activities [23] Revise a draft in response to others' comments [24] Proofread and edit a draft for grammar and rhetorical structure [25] Write a multi-draft, essay-length text [26] Read and respond to the ideas/language of another's draft

(注) 高等学校学習指導要領の活動の具体例は、☆印：文部省（1999）、○印：新里（編）（2000a）、□印：新里（編）（2000b）から抜粋した。今回分析した教科書で設定されていた課題は網掛けで示した。